

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 459 回 「GKB47」騒動に思う

2012.2.12

自殺対策強化月間(3月)のキャッチフレーズ「あなたもGKB47宣言!」を政府が批判を受けて撤回した。「GKB47」は、「ゲートキーパー・ベーシック」の略と47都道府県を表す意のはずだったが、人気アイドルグループ「AKB48」をもじった形で、「ふざけすぎ」といった反発が出ていた。また「GKB」は若い人の中では、ゴキブリの略として使われることもある。あまりにも不謹慎、本質を見極めず、イーカッコ大好き of インスタント政治家集団「民主党」の稚拙さが、またまた露呈したといえるかもしれない。300万円をかけて印刷された広報ポスター25万枚が回収・廃棄され、無駄の上乗せとなった。

実はこの問題、大変重いテーマである。

「ゲートキーパー」は、「悩んでいる人に気づき、声をかけ、必要な支援につなげる」などの活動をする人で、「命の門番」と言われる(Gate keeper…門番)。自殺志望者に対する知識やメンタルケア、応急処置などの専門知識が必要とされ、関連機関や自治体が研修やワークショップを実施し、積極的に人材育成を行っている。「ベーシック」には、自殺のサインに気づき、専門機関につなぐ役割が期待される人…専門家だけでなく国民全体で見守っていこう、という思いを込めていた。

我国の自殺者数は、平成10年に前年比で約35%増加して一挙に3万人を超えた。以後この状態が高止まりのまま推移し、警察庁の発表によると、平成23年の自殺者数は30,584人、そのうち男性が68.4%であった。14年連続で3万人を越えた。自殺死亡率(人口10万人辺りの自殺者数)は24.4人である。

この状況を世界的に見ると、世界保健機関(2008年WHO調)の世界の自殺率によれば、自殺率がいちばん高いのはリトアニアで人口10万人に対し38.6人である。以下、2位ベラルーシ、3位ロシアと続き、**日本は8位**、韓国11位(同21.9人)で、フランスは19位(同17.6人)、米国42位(同11人)、英国65位(同6.7人)だった。つまり、日本の自殺率は英国の3.8倍、米国の2.3倍、世界標準でいえば、**OECD自殺率平均の11.2人**を大きく上回り、24.4人と相変わらずの「自殺大国」ぶりを露呈している。

平成10年以降の自殺者急増は、「経済・生活問題」による中高年男性を中心としたものであり、バブル崩壊後の社会経済的状況の悪化による影響が推測される。さらに我国では高齢者の自殺が問題であり、若年者に関しても、自殺者に占める割合は小さいとはいえ、20代、30代の死因のトップが、過去10年以上自殺であることも大きな問題だ。日々、平均すれば**15分程度に1人の日本人**が自殺しており、自殺は日本人の死因の堂々7位に位置していることを、国民全体がもっと明確に認識すべきだろう。

一連の「GKB騒動」、民主党の稚拙さのお陰で、「ゲートキーパー」という言葉の啓発などに結果的に役立った側面もあった。

自殺は個人的問題で関与できない…といった風潮があった。年間3万人をこえる自殺者、30万人以上の自殺未遂者、1兆円を越える逸失所得、地域風土に及ぼすダメージまでが懸念されるのに、何で個人問題と放置できるだろうか。

自殺問題を原点に立ち戻って考える、絶好の契機にするべきだと思う。